



全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導について

毎年4月に全国の小学校第6学年と中学校第3学年の児童生徒を対象に実施されています。本校の結果の分析と、今後の指導改善の方向としての指導のポイントをお知らせします。

【国語】○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができました。

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができました。

●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題において課題が見られました。

【指導のポイント①】相手意識、目的意識をもち、表現（書く・話す）することを意識させます。

「誰に」「何のために」伝えるのかを明確にし、伝えたいことが伝わる表現になっているか自分で確認したり、仲間と交流し、お互いにアドバイスしたりする学習活動を位置付けます。

【算数】○角の大きさについて理解することができました。

○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができました。

●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題について課題が見られました。

【指導のポイント②】グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるようにします。

日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、そこから見いだしたことを表現する機会を増やします。

【理科】○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができました。

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する問題について課題が見られました。

【指導のポイント③】自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現できるようにします。

複数の自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を捉え、そこから新たな問題を見いだしていくための学習活動を工夫します。

【質問紙調査】

○朝食を毎日食べている。 ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

➢健康的な生活をしている児童が多い。

○ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。

➢ICT機器のよさを感じ、学習に活用している子が多い。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

●自分には、よいところがあると思う。将来の夢や目標を持っている。

●困りごとや不安がある時に大人にいつでも相談できる。

➢困っている子を助けようとする子が多い。自己肯定感がやや低い。

【指導のポイント④】心が動く、もらってうれしい「かがやきみつけ」の充実～自己肯定感・自己有用感の醸成～

学校生活の中で、頑張っている仲間の姿を見つけ共有する活動「かがやきみつけ」を全校で行っています。仲間の具体的な言動や行為のよさに気付く目を育て、お互いのよさを認め合うことで、自己肯定感・自己有用感の醸成を図ります。また、結果ではなく努力の過程を認め合うことで、「頑張ること」そのものに価値を見いだしていくことを大切にしています。